

司法試験合格体験談

法学未修者コース修了 受験回数 4 回 岩村明生

1 勉強計画について

司法試験当日までの勉強計画をたてることは重要だと思います。私は、司法試験の成績通知（不合格）が届いてから、各科目合格点に足りない点数を算出して、それを埋めるために必要な勉強を考え、試験までの可処分時間に割り当てるというスケジュールを具体的に作りました。

自分の点数と合格点とを比較していくと、自然と点数に敏感になり、過去問と出題趣旨を読んだとき、答案のどの部分にどれぐらい点数が割り当てられるのか考えるようになりました。そうすると、答案に書かなければ点につかないこと、書いても点にならないこと等が意識できるようになっていきました。

勉強方法を考えるときは、数人の合格者の話を聞いて、自分にあっている勉強、必要な勉強を熟慮しました。これを試験当日までやれば合格できると信じられる勉強をタスクとして設定し、スケジュールに割り振っていました。あとはそれに従って、ぶれずに淡々とこなすことを心がけました。

2 短答式試験対策としての勉強

短答式試験対策には、主に、辰巳法律研究所発行の短答過去問パーフェクトのシリーズと、早稲田経営出版発行の逐条テキストのシリーズを用いていました。

短答過去問パーフェクトを、一回につき、憲法と刑法は20問を50分で、民法は36問を75分で解いていました。問題は各肢ごとに検討するようにしました。答え合わせでは、間違えた肢は×、正解したがその理由が分からなかった肢は△、理由も分かっただけで正解した肢は○と、答えのページにチェックしていました。そして、不正解だった問題には黄色の付箋を、正解したが×の肢や△の肢を含む問題には緑色の付箋を貼りました。問題集の二周目からは、黄色の付箋の問題全部→緑色の付箋の問題全部という順番で解いていました。これを、すべての付箋がとれるまで繰り返しました。

逐条テキストには、上記した×の肢や△の肢に関連する条文や判例の部分にチェックをつけたり、繰り返し間違えてチェックが多くなった部分にマーキングをするなどして、自分の苦手な部分を明確にあらわすようにしました。

司法試験直前には、逐条テキストのチェック部分やマーキング部分を何度も確認して、苦手な問題に対処できるようにしました。

3 論文式試験対策としての勉強

論文式試験対策には、主に、平成18年以降の司法試験過去問（市販の過去問集）と、辰巳法律研究所発行の趣旨・規範ハンドブックを用いていました。

過去問は、最初の方は、科目ごとに問題、出題趣旨、採点実感を読むという作業をして

いました。この作業によって、司法試験で繰り返し出題されている部分等を確認しました。実際に問題を解く際、私は、各設問ごとでおおまかに、①出題趣旨の想定する論点を抽出できている、②法解釈（条文の定義・要件等の提示）ができている、③事実を評価しあてはめができている、という感じでその部分ごとに点が与えられると意識していました（この考え方は過去問を分析する人によって違うかもしれません）。①ができなければ、②③の部分に繋がらずまったく点を取れないと思っていたので、①の部分で失敗した問題については、復習の時間を特にしっかりとるようにしていました。もっとも、勉強計画に照らして、司法試験の成績が良かった科目については、過度に復習に時間をとらないようにしました。過去問は一度やったきりではなく、3～5回程度繰り返し解きました。

過去問の復習の際、途中答案になってしまった場合や、①、②で間違ってしまった場合、理由付けを示せなかったり論理的な繋がりが見えない答案を書いた場合は、特に問題提起や規範の提示についてスムーズに論証できるよう、趣旨規範ハンドブックの該当箇所に大きめの付箋を貼り、自分なりの論証パターンを書くようにしていました。そして、過去問を繰り返して、より良い論証の書き方を考えつくたびに、付箋を貼りなおして、論証パターンの質を上げていきました。たまに、こうして自分でアレンジした趣旨規範ハンドブックを通読して知識全般の確認等を行っていました。司法試験直前は何度も読み返していました。

判例集や基本書なども用いてはいましたが、通読するということはあまりせず、どう論証するかのため参考にするため該当箇所を調べるといった使い方をしていました。

4 予備校の利用

私は、伊藤塾の司法試験対策の演習講座（在宅受講）を利用していました。また、TKCの司法試験模試も受験しました。予備校の演習は、初見の問題（未だ過去問で問われていない領域の問題）を解く練習になりました。また、インターネットの解説も時間内に書くことを意識したものであったため、途中答案に悩んでいた自分には有益でした。TKCの模試は司法試験の会場で受けることができるため、本番のリハーサルとして有益でした。これら問題演習の復習も過去問の復習と同様に行いましたが、過去問ほど繰り返し解いたりはありません。

5 司法試験までの生活状況等

司法試験合格のための勉強方法は人それぞれだと思います。大切なことは、自分に合った勉強を、いろんな合格者の体験を参考に導き出し、これをやれば合格できると信じられる勉強計画をたて、それを実行することだと思います。それに従って勉強しても成績が伸びない場合は勉強内容、計画を見直す必要があります。現在の自分と向き合って、司法試験合格のために必要なことを考えてください。

私は、卒業後、経済的な事情によりアルバイトをしなければならなかったため、平均しておよそ月70時間ほど働きながら司法試験の勉強をしていました（勤務先の理解を得られたため試験が近づくにつれ出勤日数・時間を短くしてもらっていました）。また、卒業後

2年目以降は、経済的事情から高等司法研究科の自習室にも通わず、自宅で勉強していました。

こうした私の事情と似た状況にある方には特に、私の体験が少しでも参考になれば幸いです。